

大野城市共働事業提案制度テーマ型事業  
令和7年度テーマ

担当課 コミュニティ文化課(国際化・交流担当)

テーマ	外国人市民の地域への参加促進 ～地域イベントに地域に居住する外国人市民が参加して、顔の見える関係づくり～
課題と現状	<p>A) 解決したい地域課題</p> <p>本市の国際化推進プラン基本目標の一つに「みんなが主役“まどか”なコミュニティづくり」がある。外国人市民のうち、地域活動に参加している人の割合 40% を目標としているが、令和 5 年度の外国籍市民意識調査では、参加している人の割合は 16.9%であった。これから、外国人市民が地域活動に参加していないことが課題であることが分かった。</p> <p>B) 現在の状況について</p> <p>外国人市民が、参加しない理由として「参加したいがどうすればいいのかわからない」と回答した人は、52.3%となっている。</p> <p>【現状】</p> <p>令和 4 年度末本市の外国人人口 1,111 人(中国 25.8% ベトナム 19.8% 韓国 13.5% ネパール 12.0%)</p> <p>平成 29 年度末 785 人(中国 30.8% ベトナム 14.9% 韓国 23.1% ネパール 3.2%)</p> <p>これらを比較して、外国人人口は 5 年間で 1.41 倍となり、ネパールやベトナム出身者が増加している。</p> <p>このことにより、地域での摩擦も起こっている。</p> <p>ゴミ出しのトラブルや騒音のトラブルの声が寄せられている。</p> <p>【日本人の意識】</p> <p>令和 5 年度に日本人市民の意識調査を行った。外国人に対して好印象を持つ人は 47.5%となっており、外国人との交流や国際交流・協力で大切だと思うことは、「同じ人間としての交流」となっている。</p> <p>また「日本人と仲良く生活するためには外国人にはどのようなことが必要だと思いますか」という問いに、70%以上が「地域のルールを知り、守ること」と回答している。</p> <p>【大野城市国際交流協会】</p> <p>本市は、これまで国際交流事業を、大野城市国際交流協会と共にすすめてきた。大野城市国際交流協会は、「地球規模で考え、地域に根差した行動」をモットーに活動しており、事業を行う上で連携して取り組んでいく必要がある。</p>

<p style="text-align: center;"><b>課題と現状</b></p>	<p><b>【取り組みたいこと】</b>  外国人と日本人が、もっとも身近に暮らしているコミュニティ(自治会、学区などで、イベントや避難訓練などに共に参加し、交流をする事業の企画・実施とその仕組みづくり。  (例)  ・在住外国人が多く住む自治会と協力し地域と外国人が交流する事業を実施(防災訓練、ファッションショー、文化祭など)</p> <p><b>【共働提案事業に応募した理由】</b>  本市においては、在住外国人のネットワークとのつながりが無い。また、交流するイベントを企画・運営するノウハウがない。  このため、NGO 法人や NPO 法人の経験や柔軟な発想で共に取り組んでいただきたい。</p>
<p style="text-align: center;"><b>これまで市で実施してきた取り組み</b></p>	<p>第2次大野城市国際化推進プランに基づき下記を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流協会主催事業「国際交流フェスティバル」「異文化交流事業」「日本語教室」実施。</li> <li>・本市の広報から記事を抜粋し英訳しホームページ「Joe's NEWS」として掲載</li> <li>・小中学校への外国人ゲストティーチャーの派遣</li> <li>・英語・日本語スピーチコンテスト</li> </ul>